

文化

Culture

根室市議会議員

本田 俊治

4月3日午後、平均年齢66歳の私の妻を含めた6名の小さな訪問団一行が日本(成田空港)から15時間かけて根室市の姉妹都市である米国アラスカ州シトカ市へ降り立ちました。日本との時差は17時間、飛行機を乗り換えたワシントン州シアトル市とは1時間の時差があります。

ジャズの本場アメリカでジャズを演奏!!と大胆な企画を実現させたわけですが、この事業以降、シトカ市側からのロシアダンスチームが来根しただけ。元々の姉妹都市提携のきっかけが、漁業を中心とした経済的なつながりでした。で、国際的な漁業環境の変化とともに、市民レベルの交流は疎遠となり、近年は、首長同士の年始のメッセージ交換だけになっていました。

40年間の絆再確認

姉妹都市シトカ



マッコネル市長(中央)に長谷川市長からの親書を手渡す著者

1867年アメリカがロシアからアラスカを購入、シトカでロシア国旗を降ろしアメリカ国旗を掲げる式典が行われました。シトカ市では、「アラスカデー」として10月18日にこの式典を再現するイベントが行われています。

米国の200海里専管水域設定以前、シトカ市は根室のサケ・マス船寄港地だった縁から1975年に姉妹都市を提携していました。1999年には、私が所属する根室のビッグバンド「East Point Jazz Orchestra (EPO)」がこのアラスカデーに行われたパレードに参加。地元高校生とのジョイントライブや単独のコンサートを行っています。私たち夫婦にとつては、以来2度目の姉妹都市訪問になりました。

そんな中、昨年12月19日シトカ市との姉妹都市提携40周年の節目の日だったことを教えてくれた方がいます。長年、根室市とシトカ市の懸け橋となってくれていた角田淳朗さん(現在、東京在住)でした。

4人も同行することとなり、6人の手作り訪問ツアーが実現したのです。その旨を長谷川俊輔根室市長にお伝えしたところ、市長と田塚不二男議長、根室高校、花咲小学校両学校長の親書をお預かりすることになり、6人が根室市から

市長から根室市民へ白頭鷲と大ガラスを描いた平和と友情のメッセージが込められた絵画を託されました。

後日、私達の訪問はシトカの新聞に、「太平洋を挟んで向き合う二つの姉妹都市を結ぶ交流関係、その40周年を祝うセレブレーション」と紹介されました。

シトカ市長は「日本にある我らの姉妹都市との関係を維持することは、実に有意義なこと」「もっと緊密な関係を築ける環境を整えていければと思う」と、また、マッコネル市長は「姉妹都市のコン

れる。世界中のことなる文化との接触を可能にし、地理的距離を忘れさせる程度の存在を身近に感じさせてくれる」と、お二人のコメントも紹介されています。

シトカ高校では校内見学を、ケートゴーストヘーン小学校では、校長先生との懇談や花咲小学校へのプレゼントとして同校オリジナルのTシャツをお預かりしました。

訪問3日目は、17年前のコンサートで共演したマイクさんのご自宅を訪問。シトカ市で最近ビックバンドが結成されたこと、ジャズフェスティバルが開かれて

カ市訪問

いることを聞き、さらにはEPJOへのプレゼントとしてマイクさんのオリジナルアレンジ譜面までいただきました。

その夜には17年前、EPJOを受け入れて下さった当時の市長の娘さん夫妻、そのお子さん家族、マイクさんと夫妻にホームパーティを企画していただきました。懐かしさ、また、新たなつながりを感じるとても温かいひと時でした。

1999年以降姉妹都市交流は停滞していますが、40年間の交流によりシトカ市民と根室市民の間に

芽生えた絆は細々ではありますが確かに結ばれていました。そのことを確信した夜でもありません。

17年前、私には、もう一つのミッションがありました。当時、根室高校の女子生徒数名が姉妹校であるシトカ高校に短期留学中で、発売されたばかりのテレビ会議システムを根室高校とインターネット回線で結び、面校をつなぐという実験です。短い時間でしたが、無事面校の接続ができました。

その時の子どもたちの笑顔がとても印象的でした。

インターネット、SNS

などによりシームレス化が進み、どこの国の方とも交流のできる時代になりました。

姉妹都市交流にインターネット、SNSの活用も有効と思いますが、まずはFace to faceから。人的交流、教育・文化、子どもたちの交流などをキーワードに、姉妹都市であるシトカ市と新たな枠組みで交流を復活させたいものです。

もう一度、子どもたちの笑顔をーそんなことを感じ

た2度目の姉妹都市シトカ市訪問でした。サポートして下さった角田さん、そして、小さな訪問団に参加い

ただいた皆さんのおかげで素晴らしい経験ができました。